



にじ
虹いろ

小島
由美

小島
由美



八ヶ岳名水会二十周年記念シ

ンポジウムに参加して

山梨県市町村総合事務組合

電子自治体推進室 室長補佐

保坂 智之

北杜市の農と食を改めて考える機会として「誰もが主役になれるまちづくり」をメインテーマに基調講演とシンポジウムが開催された。

まず、基調講演を聴講しての感想を述べたい。

“誰もが主役になれる”とは、何を意味しているのだろうか?と思いを馳せながら講師の価値総合研究所の鴨志田主任研究員が紹介する全国のまちづく

り事例や講師の考えに耳を傾けた。ここでは、各地で展開されているまちづくりの成功事例が紹介されたが、総じてその秘訣として言えることは、地域の人が主役である内発が共通する要素であった。よく「まちづくりにはキーマンが必要である。」と言われるが、そのキーマンが外部の人であったり、まちづくりを主導するコンサルであったりするケースが見られるが、これは永遠に継続していかなければならない“まちづくり”の序章やトリガーに過ぎず、これに多くを期待することは言い替えば単に開発を推し進めることと同じである。やはり地域をおこす原点は、旧来より地域を受け継いできたそこに暮らす人たちでなければならず、サブテーマにもある内発型の“まちづくり”が単純明快な方法であるように思えた。

また、“まちづくり”の要素として忘れてはならない重要なものとして地域資源がある。この認識においては、地



域資源と日々接している地域の人が重要な役割を担うことになるが、資源発見・発掘においては、日々接している人ほど逆に疎くなりがちとなり、そこを補完するための手段として外部の人の手を借りることも必要であることから、地域内外との協働も「まちづくり」を重厚にしていく方法であることも言

える。

講演で紹介された事例にも窺えるが、主役はあくまで地域の住民や農家ではあるが、活性化の協業者として生協であったり、タウンミーティングの主役が中学生であったりと、やはり“まちづくり”には、多様性や多角的視点を取り入れることも活性化ポイントの一つであった。

次に、シンポジウムが行われ、地域を代表する市長、地域外から移住した農業者、地域の農業者（議会議長も務める）、福祉関係者の四人がシンポジストとして登壇した。各人様々な立場からの視点で意見が述べられたが、地域を守るうとする郷土愛や地域農業や食への思いは、皆一致しているように感じた。地域には、様々な人が暮らしているが、少子高齢社会が加速していく未来への不安や次世代へ有用なものを残そうとする思いは共通であり、それぞれ置かれている立場の中で意識することなく自然体で“まちづくり”

を展開しているように感じる。その一つひとつの積み重ねによって、地域があるべき姿へと形成されていくのではないかと思われる。

最後に、このような考える機会を提示してくださった八ヶ岳名水会について触れてみたい。八ヶ岳名水会では、障害者福祉施設として障害者を受け入れ自立支援に取り組んでいる。その内容は“まちづくり”の原点である地域の人に関わり、また生活の原点である農や食を通じて自立に向けた活動をしており、地域の人は福祉に対する理解と社会貢献を、一方障害者においては農や食の活性化を自ら実践することによる地域貢献と社会貢献を行っている。互いに立場は異なるが、それぞれが一つになり融合し合うことによって、本来の地域や社会のあるべき姿に向かって一歩ずつ前進をしているように見える。まさに、今回のテーマである「誰もが主役になれるまちづくり」の実践部隊である。

今回、二十周年記念事業に参加させていただき、自分が忘れかけていた、いや疎かにしていた“まちづくり”という将来へ繋げるための動きへの思いを強くさせられた。
ありがとうございました。



ドッチボール大会



法人二十周年記念行事オフ企画
記念式典後お疲れ様会をかねたオフ企画としてスポーツ大会と忘年会、新年会が企画され多くの職員が事業の垣根を越えて一同に会する機会となりました。

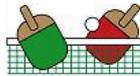
「オフ企画スポーツ大会を通して」

春の陽 猪股 侑紀

私は、二十周年記念オフ会のスポーツ大会の企画・運営を担当しました。この会を通して、良かったな、と思えることが二つありました。

一つ目は、参加してくださった皆さんに楽しんでいただけたことです。企画の係の職員は、普段の業務とは別に準備を進めなければならず、大変なこともありました。しかし、大会の後、参加してくださった方から「楽しかった!」と声をかけていただけました。

二つ目は、他の事業所の職員と交流を持てたことです。特に、準備の段階では普段関わることの少ない職員と何度も話し合いをしました。個人的なことですが、その中で自分にとって勉強になることが多くあり、これからの仕事に活かせるものを得られました。企画からこの会に携わることができ、とても良い経験になりました。



卓球大会

「オフ企画を終えて」

星の里 板倉 未愛

二十周年記念オフ会による法人全体の忘年会と新年会が行われました。私は企画側として参加しました。まず企画の案から考えて皆で何度も打ち合わせをし、予算を計算し、実際に会場の下見にも行きました。職員皆が来てよかった、と思えるよう全員で悩み準備に取り組みました。しかし初めての試みということもあり全てが手探りでした。一から作り上げるものは、とまどいもあり悩むことが多かったように感じます。けれど終わった後の達成感は大きく、とても貴重な経験になりました。参加された職員の方々も他事業所の人と交流を深めることが出来、いい機会になったことと感じます。私自身、楽しむことが出来、成長したと感じた企画でした。

スパティオにて忘年会 お疲れ様でしたー!!



やった!!ピンゴ
で肉ゲット



菜の花利用者作品展

「みえなつまつり」を終えし...



二月二十六日から三月三日にかけて、

蕪崎駅前ニコリ内
市民ギャラリーにて
第四回作品展「み



えないことづけ」を開催いたしました。今回は「動」をテーマに一年間、造形活動に取り組んできました。模造紙に力いっぱい筆を走らせた作品や、ラップの芯を使った色とりどりの〇模様、小さな星がかわいらしい作品などのさまざまな作品を展示することができました。会場入り口には蕪崎市キャラクターのニーナとくまモンの顔出しパネル、会場に入ると色や形、材質も違う個性豊かな作品達が、優しく温かい雰囲気を作ってくれました。作品を展示するにあたり、“どうしたら菜の花の楽しい雰囲気を伝えることができるだろ

うか”“どうすれば活動に取り組んでいるときの利用者さんの笑顔を見てもらえるだろうか”と試行錯誤してきました。作品作りを楽しんでいる様子はその時しか見ることはできませんが、それは造りあげた作品からでも伝わることは多いのではないかと思います、一つ一つの作品と向き合ってきました。会場に足を運んでくださった親御さんやお客様からは、「作っているときの楽しそうな表情が目に見えかぶ」、「作品を見て元気をもらった」、「今年も楽しみにしていました。来年も楽しみにしています。」など心温まるお言葉をいただき、私自身励まされ、元気をもらい、心から作品展を開催することができて良かったと思います。また、展示会を見にいらした利用者さんは自分の作品を指さして、とびつきの笑顔を見せてくれ、その笑顔にも癒され、励まされ、感動の連続でした。今回のテーマ「動」には作品自体の動きに加え、心の動きも含めていまし



た。お客様からのお言葉や作品を見ているときの表情からは作品を楽しみ、何かを考え、感じとつてくれたのではないかと思います。それでも一つ言えることは、誰よりも展示会を楽しんだのは私です。

ニコリでの作品展の開催は今回で三回目となり、毎年楽しみにしてくれているお客さんも増えてきていることに喜びを感じると共に、楽しみにしてくれているお客様にもっと菜の花のこと、利用者さんのことを知ってもらえるような作品展を開催していけるよう努めていこうと思っております。

作品展に来てくださった方々、支えてくださった方々に菜の花一同感謝申し上げます。本当にありがとうございます。来年もよろしく願います。

菜の花支援員 小池 翔



星の里に大雪が降った日

2月14日から15日にかけて、山梨県では観測史上記録に残る大雪が降りました。星の里も例外ではありません。2月の8日から9日にかけて降った雪が多く残ったまま、さらに大量の雪が降ったことよって、星の里の周囲は1m 50cm以上の積雪に囲まれることとなりました。

星の里では、2月14日の朝から大雪が降り始めました。利用者といっしょに雪かきを行いながら、安全のために予定されていた通院は早い時間に行つて受診を済ませました。

夕方にはかなりの積雪となり、翌日の勤務となっていた私は、今無理をして帰宅すると翌日の勤務が不可能になると考え、そのまま星の里に残ることにしました。結局、私を含めて5名の支援員が星の里に残りました。入所施設では24時間365日の支援が欠かせないからです。

雪は深夜になつても降り続け、私たちはビニールハウスが倒壊しないよう、たき火を絶やさず燃やし続けました。

翌15日は、山梨県全域の交通網が寸

断されました。普段は厨房で食事を作つてくれている業者の方も来られないため、私たちが厨房の応援に入り朝食を作りました。また、食材が届かないため、明日の朝食以降は非常食になるかもしれないといわれました。

近くのグループホームでは、肺炎を患っていた利用者の容体が急変したため、星の里に応援の連絡が入りました。救急車の出動を要請しましたが、積雪のため来れないとのことでした。支援員が交代で雪かきをして車を出せるようにして、近くの道路に除雪車が入るのを待つて消防署まで利用者を搬送し、そこから救急車にて病院まで行きました。

また、別のグループホームでは、やはり積雪によって孤立状態となつてしまったため、星の里から徒歩にて応援に行き、料理と与薬の支援を行いました。

14日から1泊ショートステイの利用者がおられたのですが、大雪のためもう1泊することとなりました。急な宿泊となりましたが、とても落ち着いて過ごしていただきました。

休日の養鶏作業や散歩、買い物などの活動・外出はすべて中止にしました。

買い物に行けないことへの不満や大雪への不安から非常ベルを鳴らす利用者がおられました。周囲の状況を説明することで納得していただきました。

多数の利用者は食堂に集まってカラオケを楽しんでおられました。司会進行役として歌う順番などを取り仕切つてくれる利用者がおられ、厳しい状況のなか、とても助かりました。15日の夜勤は残った支援員が交代で行いました。16日早朝からは支援員が地域ごとにグループを組んでの出勤が始まり、私たち残った職員も夕方には帰宅することができました。

星の里支援員 相吉 謙輔



雪の重さで屋根がつぶれてしまいました。



薪ストーブの煙突も折れてしまいました。

女取の泉

「ぽーら」を知っていますか？

八ヶ岳名水会が運営する共同生活住居（GH・CH）は、八ヶ岳南麓の北杜市や韮崎市の市街地に広く点在しています。「ぽーら」は、星の里周辺にある北部のGH・CHを担当するチームの名称です。星の里に拠点を置き、共同生活住居利用者が地域で生活していくために必要な支援を提供している職員集団



グループホーム 北斗の家

です。

私たち「ぽーら」スタッフは、どんなに重度の障がいがある人でも自分の生まれ育った地域で、より多くの人とつながりを持ちながら、本人らしく安心して生活していただくことを基本理念として日々の支援にあたっています。

支援内容は、食事介助や入浴介助、整容、居室整理、通院や外出支援など、生活全般にわたります。地域で暮らしている利用者は、日中に福祉施設に通っている、企業で働いたり、夜間の余暇活動に参加したりと様々なライフスタイルをお持ちです。ですから、必要な支援はそれぞれ違い、ニーズに合わせた個々の支援が必要です。そのため、ひとりひとりに合わせた支援を行うためにアクセスメントを行い、それを基に個別支援計画というものを作り支援内容や目的、利用者本人の目標などを明確にし、支援する側に支援の差が出ないよう注意し、本人と一緒に目標達成を目指して支援しています。また支援した内容を見直し、次の個別支援計画に反映していきます。

現在、北部のGH・CHでは利用者の

高齢化が進み、様々な課題も見えて来ています。ソフト面、ハード面共に一つ一つ形にし、今後も増え続ける高齢者にとって安心した住みよい環境を提供できるように、チーム一丸となって支援にあたっていきたいと思っています。

この仕事は決して機械化できない、人と人の関わりが重要な尊い仕事だと思います。今後も人を敬う気持ちを忘れずに、日々初心に還り、利用されている方々が、気持ち良く生活を送って頂けるように頑張っていきたいと思っています。

ぽーら サービス管理責任者

守屋 亮

この欄は、毎回、八ヶ岳名水会で働く職員やボランティアの方が、交替で書き綴るコーナーです。女取の泉は、長坂小荒間の森の中にある美しい泉です。

日野春小学校一年一組にて



私の所属部署は事務局です。事務局は昨年十一月より、『星の里』と『旧・日野春小学校』に分かれて業務を行っています。

私自身の仕事場は小学校の方で、初めのうちは幼少期にタイムスリップしたような戸惑いもありましたが、何とも言えない懐かしさと癒しを覚えたりする今日この頃。校庭のあちらこちらに植えられた桜や樹木の芽吹きが待ち遠しいです。また、事務室の北側には八ヶ岳、南側には富士山の勇姿が眺められ、「よし、ヤルぞー」という気持ち呼び起こさせてもらえるという環境も気に入っています。

さて肝心の事務室はというと、当然のことながら旧教室の一年一組。でも、驚くことなかれ！北杜市役所の窓口にも似たカウンターが設えてあるのです。しかも、このカウンターこそは何を隠そう、総務の塚原さんのお手製。なん

と！金庫室も氏によるもの……「ピツククリ」でしょ。感謝感激なのです。

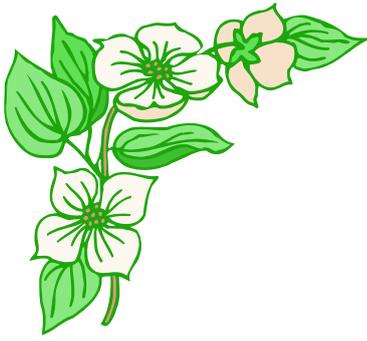
事務局内でのもっぱらの話題は、利用者さん個々の状況についてはもちろんですが、夕食のおかずについてが多いかなあ……。特に最近話題になったのは恵方巻きの食べ方について。今年の方角は？にはじまって、具材やそれにまつわるウンチクに関するものでした。そんなこんなの事務局で、毎日賑やかに、時には寡黙に……業務を遂行する日々です。

とはいえ小学校の校舎。ご想像のとおり手洗い場は低く、トイレは狭く……「改善できないの？」と、ついボヤいてみたりもします。今後、耐震工事や修復が完了すれば、一階は『春の陽』の作業場、二階は絵画等の展示場や地域の方々のイベント・スペースになる予定。ということとは、もしかして手洗い場もトイレも改善……。

そんな期待も胸に、今後とも地域の皆様のご協力を頂きながら、旧・日野春小学校がさらに有効活用されるよう、八ヶ岳名水会の一員として尽力していきたいと考えております。

事務局 奥村 仁美





焙煎機
煎豆屋株式会社様



ご報告
多くの皆様より尊いご支援
をいただきました。



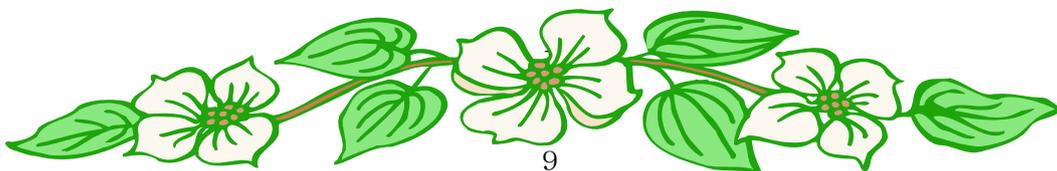
軽トラック
日本財団様



車椅子
あいおいニッセイ同和損保MS&A
Dゆにぞんスマイルクラブ様

- 大雪の時の雪かきボランティアに来てくださった方
- グリーンヒルホーム様
(利用者3人・職員2人)
かがやき農場様
(利用者4人・職員2人)
藤田まさひろ様(個人)
秋山広大様(個人)
三沢麻衣子様(あらま)
井上あゆみ様(あらま)
- ご寄付
- 中山 守様
(ビニールハウスの修理道具のサポーター3台)
小林静明様
(野菜)
NTT東日本様
(寄付金)
荏崎カトリック教会様
(寄付金)
北杜市様
(豆苗)
法人職員 M・H様
(単管足場パイプ一式・クランプ一式・腕木一式・スチール棚・その他道具類)

皆様の温かいご支援にあらためて心より厚く御礼申し上げます。



ありがとうございました！

○題字を書いてくださった方

後援会員・法人評議員木村輝三様奥様

木村 正子さん

○表紙絵を描いてくださった方

星の里利用者 小林 由美さん

素敵な字と絵をありがとうございました。

中古の農業機械を譲ってください！

菜の花では、中古の耕運機や管理機・

トラクター等を探しています。倉庫などで眠っている機械がありましたら、どうぞ譲ってください。（作動可能か簡単な整備で作動するものに限ります。）

連絡先 090・6508・0507

菜の花 廣瀬まで

計報

菜の花職員

氏原 祐さん 享年30歳

グループホーム利用者

奥山 金光さん 享年79歳

春の陽利用者

富高 いつみさん 享年49歳

編集後記

氏原祐さんは菜の花スタッフでした。いつもニコニコ働いて、利用者や職員の人気者でした。週3回も透析をしなければならぬのに頑張って菜の花に通っていました。

奥山金光さんの容態が急変した時には、ケアホームは大雪に阻まれて救急搬送が不可能でした。あの大雪さえなければ、二人とも元気で今も仕事をしていたかもしれません。これから暫くは、雪を見るのが辛くなります。

富高いつみさんも支援する側としては残念でならないと悔やまれます。

この冬は、早く春が来て欲しいと切に願いました。

三人のご冥福をお祈りいたします。

今、日野春小学校の桜は満開です。春は来ました。それぞれが、各々の希望や夢を胸に抱いて、また新たな歩みを始めました。

光



社会福祉法人 ハヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間
1095-7

TEL 0551-32-7355

FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@coast.ocn.ne.jp

広報委員会スタッフ

廣瀬政光 山口和江（以上菜の花）坂本ます子 相吉謙輔 横森紘子（以上星の里）

中村萌々子（以上春の陽）清水めぐみ 中村和稔（以上陽だまり）

坂本むつみ 鈴木直子（以上事務局）

